

1 題材名 自分の分身ゆるキャラをつくろう

2 題材の目標

自分の個性やイメージを基に主題を生成し、表現形式を生かしながら創造的に表現するとともに、他の生徒の作品から作者の考えや意図と創造的な表現の工夫を感じ取り理解を深める。

3 題材について

(1) 題材観

本題材では、軽量粘土と断熱材という加工しやすい材料を用いて、自己のイメージや考えをより具体的に表現する活動を行う。高等学校学習指導要領芸術の美術I内容A表現(1)では、「表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練ること。」と示されている。本題材の「自分の分身ゆるキャラ」を表現することは、自分の個性やイメージを基に主題を生成し、表現形式の特性を生かしながら構想を練ることにつながると考える。

(2) 生徒の実態

本校では、比較的素直な生徒が多く、美術の授業でも与えられた課題はしっかりと取り組み、完成させることができる。しかし、自ら発想し、表現することができると思う生徒の数は多くない。現在1年生の美術I選択者でアンケートをとったところ、全体77人中、ものを見て描くことが得意だと考える生徒が53人、想像して描くことが得意だと考える生徒が24人という結果になった。このことから、自ら発想して表現することができるような手立てが必要だと考える。

(3) 指導観

そこで、本題材では、「ゆるキャラ」という生徒に身近なテーマで制作することを考えた。まず、ワークシートを使い自分自身を見つめ、その後、グループで話し合う活動を行う。このことにより他者から見た自分を意識することで、新たな自分を発見し、より個性を生かしたキャラクターづくりができると思う。次に、扱いやすい軽量粘土や断熱材を基本材料とすることで、生徒が積極的に取り組めるようにする。また、針金やビーズなど様々な素材の使用を可能とすることで、表現方法を工夫し、主題を追求して表現することができると思う。

4 題材の評価規準

観 点	美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評 価 規 準	①ゆるキャラを自分のイメージに合わせて表現することに 関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 ②他の生徒の作品の多様な表現に関心をもち、主体的に作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り理解を深めようとしている。	①自分の個性やイメージを基に主題を生成し、表現形式の特性を生かしながら創造的な表現の構想を練っている。	①意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求し表現している。	①他の生徒の作品を見て、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り理解を深めている。

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

次	時	●学習のねらい・学習活動	評価の観点				学習活動に即した評価規準 ()は評価方法
			関	発	技	鑑	
1	①	<p>●自分に合ったゆるキャラのイメージを膨らませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分についてのイメージを絵や文章でワークシートにかく。 ワークシートを基に、グループで互いのイメージについて話し合い、自分のキャラクターの方向性を決める。 	○				<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージに合わせてゆるキャラを表現することに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 (観察, ワークシート) グループの話合いの中で自分のイメージについて多様な視点から見つめ直している。 (観察, ワークシート)
2	2	<p>●自分に合ったゆるキャラのデザインを決定する。</p> <p>●表現形式の特性を生かしながら表現方法を工夫し主題を追求して表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆるキャラのイメージが固まったら、具体的なキャラクターデザインとその背景（土台のデザイン・取り扱い説明書）を数パターン描き起こし、もっとも自分の分身らしい具体的なフォルムを見つけ出す。 	○				<ul style="list-style-type: none"> 自己と向き合う中で自分が何を表現したいのか考え、主体的に主題を生成し追求しようとしている。 (観察, アイデアスケッチ) 自分の個性やイメージを基に主題を生成し形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 (観察, アイデアスケッチ)
	3	<ul style="list-style-type: none"> 軽量粘土や断熱材を使いパーツをつくっていく。 	○				<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具を使ってゆるキャラを表現することに関心をもち、主体的に表現しようとしている。 (観察)
	4	<ul style="list-style-type: none"> 紙やすりで表面を整える。 					
	5	<ul style="list-style-type: none"> 土台を制作する。 					
	6	<ul style="list-style-type: none"> アクリル絵の具を使い、パーツや土台に色を塗っていく。 				○	<ul style="list-style-type: none"> 意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求し表現している。 (観察, 作品)
	7	<ul style="list-style-type: none"> パーツを針金、ボンド、グルーガンを使い接着し、土台に固定する。 ニス塗って仕上げる。 					
3	8	<p>●他の生徒の作品を見て、様々な表現方法があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品とゆるキャラの取り扱い説明書を机に置き、全員で鑑賞した後に、投票にて「清松高校ゆるキャラグランプリ作品」を決定する。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ゆるキャラを鑑賞することに関心をもち、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り理解を深めようとしている。 (観察, 鑑賞カード, 投票券) 自他の分身ゆるキャラについて、作品の背景を見つめ分析するなどして総合的に理解を深めている。 (観察, 鑑賞カード)

6 本時の学習

(1) 目標

自分のゆるキャラを構想し、グループで話し合うことで、自己を見つめ直し、個性を生かしたキャラクターづくりを行う。

(2) 準備・資料

教師：ワークシート、鑑賞資料、課題見本、色鉛筆、軽量紙粘土、断熱材

生徒：筆記用具，教科書

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
<p>1 本時の学習課題を把握する。</p> <p>自分の分身ゆるキャラをイメージしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none">参考作品を見て，作者の意図と表現の工夫を感じ取る。 <p>2 自分のイメージに合わせたゆるキャラを構想し，互いのイメージについて話し合う。</p> <p>(1) ワークシートに自分のイメージを絵や文章でかく。</p> <p>(2) ワークシートを基にグループで互いのイメージについて話し合う。</p> <p>(3) 自分のイメージについて再考し，自分の個性を生かしたキャラクターづくりを行う。</p> <p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>4 後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none">本時の学習内容を提示することで，学習の見通しをもつことができるようにする。教師が制作した課題見本や過去の生徒作品，ご当地ゆるキャラの画像を見せて，作品について具体的なイメージをもつことができるようにする。発想の手助けになるような質問事項を書いたワークシートと色鉛筆を配布する。自分のイメージについて考えが膨らむように机間指導しながら個別に助言する。既成のキャラクターではなく，生徒一人一人の個性を生かしたデザインとなるような助言をする。 <p>◎自分のイメージに合わせてゆるキャラを表現することに関心を持ち，主体的に取り組もうとしている。（観察・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none">キャラクターのアイデアが早い段階で完成した生徒には，色や持っている道具を変えてみるなど別のパターンを考えてみるよう助言する。イメージが膨らまず活動が進まない生徒には，本人の持ち物や，好きなものなどについての話をする中で本人の傾向を探り，イメージをつかむきっかけを作る。グループ内でワークシートに書いてある質問事項を話し合い，グループのメンバーに言われたことをワークシートに記述していくように説明する。話が弾まないグループには，話が広がるように共通理解できる具体的な話題を提供する。席を戻し，自分で考えたイメージと他者から見た自分を照らし合わせ，自分の分身となるゆるキャラのイメージを更に深めていくように助言する。 <p>◎自分の個性やイメージを基に主題を生成し，表現形式の特性を生かしながら創造的な表現の構想を練っている。（観察・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none">すでにキャラクターが完成した生徒には，設定を細かく考え，キャラクターを更に深化できるような助言をする。キャラクターが思い付かない生徒には，グループのメンバーが出した意見を積極的に取り入れ，具体的な形にしていくように助言する。生徒が自己を見つめ直し，他者から見た自分を意識することで具体的なイメージをもたせ，次時の学習の手掛かりとする。授業時間内に片付けられるように5分前に声かけをする。